

<p><b>重点目標</b></p>	<p>日本語の力、学力の向上を目指し、質の高い教育活動を推進する。</p>	<p>P</p>
<p><b>現 状</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・聴覚障害の程度の違いに加え、他の障害を併せ有する幼児児童生徒から就職・大学進学を目指す生徒まで、実態は幅広く多様である。</li> <li>・在籍数の減少に伴い、個別学習の授業形態が多く、集団での学びの機会が少なくなっている。</li> </ul>	
<p><b>具体的な目標</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・聴覚障害、教科指導、重複障害に関する教員の力量を高め、学部間の連携や情報交換により多様な実態に対応する。</li> <li>・幼児児童生徒が、聴覚障害の有無に関わらず同年代や異年齢の人と接したり、当事者ロールモデルの経験や考えに触れる機会を増やし、充実させる。</li> <li>・保護者アンケート、職員アンケートにおいて、上記の目標に関連する項目で、「十分」「やや十分」の回答を昨年度比で上昇させることを目指す。</li> </ul>	
<p><b>目標達成のための方策</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・聴覚障害に関しては、自立活動学習会や有志学習会である「専門性プロジェクト」での研修を推進し、専門性の向上を図る。</li> <li>・教科指導、重複障害に関しては、縦割りの班による研究と授業づくりを通して職員の力量形成を図る。</li> <li>・居住地校交流や学校間交流について、目的や方法を保護者や関係者が確認・検討する。また、県内の特別支援学校・特別支援学級児童生徒との交流、成人聴覚障害者との交流などの機会を活用し、校外の人と触れ合う機会をつくる。</li> </ul>	
<p><b>具体的な取組状況</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自立活動に関する学習会では、医師、言語聴覚士、メーカーを外部講師に招き、研修を行った。</li> <li>・有志学習会を8回行った。</li> <li>・会議後のICTミニ研修、職員朝会でのワンポイント手話を継続的に行った。</li> <li>・研究主題「主体的に学ぶ子どもを育てるための授業づくり」の下に、2年計画の研究に取り組んでいる。今年度は、教科指導班、重複障害班を縦割りで編成した。</li> <li>・他県とのオンライン交流、特別支援学校・特別支援学級との作業学習交流を継続的に行った。また、ニーズに応じ居住地域の小学校や特別支援学校における交流学習を継続した。</li> <li>・デフリンピックに関連した取組を通し、ロールモデルとなる成人聴</li> </ul>	<p>D</p>

	覚障害者から学ぶ機会を設定した。		
達成状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>ことばの指導と学力の向上について保護者から高い評価を受けた。重複障害についての理解や工夫には教職員の評価が上昇した。</li> <li>デフリンピックに関連した取組を通じて、成人聴覚障害者との交流や手話を生かした発信の機会が増えた。</li> <li>小学部で他県聴覚支援学校とのオンライン交流、中学部で特別支援学校や特別支援学級との作業学習交流を継続的に行った。また、居住地校交流や地域の特別支援学校との交流の機会を設けた。</li> </ul>		
自己評価	(評価) A	(根拠) 「具体的な目標」に関連する項目で、昨年度との差が10ポイント以上あったものを挙げる。 <保護者> ・ことばの指導についての工夫 「十分」 25ポイント↑ ・学力の向上(遊びの充実)に向けた指導・支援の改善 「十分」 15ポイント↑ <教職員> ・ロールモデルや当事者団体から学ぶ機会の活用 「十分」 21.4ポイント↑ ・手話を生かした教育活動 「十分」 10.4ポイント↑ ・発達障害や知的障害等についての理解、指導の工夫 「十分」「やや十分」の合計 18ポイント↑ ・エリア3校による生徒会活動や授業研究会等を通じた指導力向上 「十分」「やや十分」の合計 11.4ポイント↑	C

↑ 評価基準  
↓

A : 具体的な活動がなされ目標を達成できた  
B : 具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない  
C : 具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない

学校関係者 評価と意見	(評価) B	(意見) 学校関係者からは、児童生徒数の少なさ、児童生徒や保護者への対応の視点から、次の提言があった。 ・オンライン交流の計画・内容の充実 ・他県との協力による合同学習 ・行事に関する教育的な捉えの共有 ・聴覚障害当事者の立場に立った環境のさらなる充実	C
----------------	-----------	---	---

自己評価及び 学校関係者評価に基づいた 改善策	幼児児童生徒の実態の多様化と在籍数の現状を踏まえ、幅広い専門性の向上と教育課程の検討が求められる。そのため、次の点に注力して教育活動の質を高めたい。 <ul style="list-style-type: none"> <li>互見授業の活性化</li> <li>研究班での授業改善の検討</li> </ul>		A
-------------------------------	--	--	---

- ・多様な形での交流及び共同学習の継続
- ・行事に関する目的の明確化と共通理解
- ・学校全体による教育課程の検討
- ・取組についての積極的な発信